

# 中心市街地活性化の課題

## 中心市街地活性化の課題

第2期計画では、「行きたいまち」、「住みたいまち」、「活力あるまち」の3つの目標を設定し、官民一体となって中心市街地の活性化に向けた各種取組を実施してきました。

その結果、中心市街地のにぎわい拠点となる「あきた芸術劇場ミルハス」等の施設整備が実現し、新たな人の流れが生まれつつありますが、新型コロナウイルス感染拡大の影響による外出機会の減少などにより、歩行者・自転車通行量など第2期計画で達成できなかった目標指標があるなど、引き続き課題が残されています。

また、秋田市人口ビジョンにおいて、今後本市の人口が減少することが予測される中、中心市街地は、本市をイメージする「顔」として、拠点施設を中心にその周辺との一体的なにぎわいの創出を進め、市民や訪問者が愛着を持てる多機能空間として活性化を図る必要があります。

以上の基本的認識を踏まえ、第2章でにぎわい、人々の居住、事業者・市民活動に着目して整理した中心市街地の現状から、中心市街地の活性化に向けた課題を抽出します。

### 現況 1

- ・まちのにぎわいが新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け低下している。
- ・第1期、第2期計画を通して、にぎわい創出に寄与する各種施設が整備されてきている。
- ・中心市街地全体の回遊性が低い。
- ・交通利便性の向上が求められている。

### 課題 1

既存施設を活かした  
来街者増加と  
回遊性の向上

### 現況 2

- ・民間マンションの建設により居住人口は増加傾向にある。
- ・居住者は、日常的な買物に対応した商業施設や安全、快適で便利な居住環境の整備を望んでいる。

### 課題 2

居住環境の向上  
による住みやすい  
まちづくり

### 現況 3

- ・中心市街地内外問わず、店舗の満足度が低下している。
- ・継続的に空き店舗が発生し、大規模な空き地・空きビルが存在している。
- ・市民活動の活発化への基盤が形成されてきている。

### 課題 3

商店街の魅力向上と  
中心市街地活性化の  
担い手の育成

## にぎわいに着目した課題

### 課題 1 既存施設を活かした来街者増加と回遊性の向上

中心市街地のまちのにぎわいが、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け低下していますが、第1期、第2期計画を通して、「エリアなかいち」、「あきた芸術劇場ミルハス」を中心に各種ハードの整備が進み、今後、「佐竹史料館の建て替え」や「千秋美術館の改修」など、既存施設のリニューアルを実施する予定となっています。

これらの既存施設と官民の連携による各種ソフト事業との相乗効果、中心市街地の交通利便性や歩きたくなる歩行者環境の向上により、回遊性を高め、にぎわいを波及させていくことが課題となります。

## 人々の居住に着目した課題

### 課題 2 居住環境の向上による住みやすいまちづくり

中心市街地居住人口は民間マンションの建設により増加することが予測される一方、中心市街地居住者からは、日常的な買物に対応した商業施設やバリアフリーに配慮した安全・快適で便利な居住環境のニーズがあげられています。

このような状況を踏まえ、今後、まちなか居住の一層の推進に向けて、空き家・空き室等の既存ストックの活用促進や民間マンション整備への支援等により、第2期計画に引き続き、住宅などの転入人口の受け皿整備とともに、まちなか居住における日常生活の利便性向上とまちの魅力創出により、居住人口の定着を促進することが課題となります。

## 事業者・市民活動に着目した課題

### 課題 3 商店街の魅力向上と中心市街地活性化の担い手の育成

市民アンケート調査の結果を見ると、中心市街地内外問わず、市内店舗の満足度が低下していますが、「商業機能」は中心市街地を構成する重要な要素であることから、中心市街地店舗の魅力向上、継続的に発生している空き店舗等の創業などへの有効活用が求められています。

また、中心市街地のにぎわい創出と活力向上を図る上で市民を巻き込んだ取組が重要となることから、芸術文化ゾーンの「にぎわい交流館AU」や「秋田市文化創造館」、秋田駅東口の「秋田拠点センターALVE」を中心に、市民活動を促進し、第1期、第2期計画を通してにぎわい創出の基盤が形成されてきている中心市街地を活性化するための、担い手の育成が重要となります。